

2024年8月16日(金) ハコラク9月号 掲載

医療の現場から『骨粗鬆症の薬物治療』

薬剤部 尾崎 弘明 薬剤師(骨粗鬆症マネージャー)

こつそしょうしょう

## 骨粗鬆症の薬物治療



函館中央病院

薬剤師(骨粗鬆症マネージャー)

尾崎 弘明 さん

近年、テレビなどで骨粗鬆症に関するサブリメントが登場し話題となっておりですが、皆さんの周りに骨粗鬆症と言われた方、または現在骨粗鬆症の治療を受けている方はいらっしゃるでしょうか。骨粗鬆症は、骨の強度が低下し、骨折しやすくなる病気です。原因としては、高齢や生活習慣などさまざまな要因がありますが、特に女性は閉経に伴い女性ホルモンが減少するので、男性よりも女性の方が、

骨量が減少し骨折しやすくなります。骨粗鬆症が進行すると骨がスカスカでもろくなり、転倒やくしゃみなどでも骨折を起こしてしまいます。一度骨折を起こすと、周りの骨に負担がかかるため、連鎖的に骨折を起こしてしまう「ドミノ骨折」の危険性が生じます。この「ドミノ骨折」を予防する手段の一つとして薬物治療があります。骨粗鬆症の薬物治療は、「骨を壊す働きを抑えるお薬」と「新しい骨を

つくる働きを促すお薬」の大きく2つに分かれます。「骨を壊す働きを抑えるお薬」は主に飲み薬、「新しい骨をつくる働きを促すお薬」は主に注射薬が当てはまり、骨密度の程度や骨折の危険性を考慮して選択されます。薬物治療を受ける際の注意点は、お薬の用法が複雑であるということですので。飲み薬は毎日、週1回、月1回飲むお薬があります。注射薬は月1回、インスリンのように自分で毎日1回自己注射する薬剤もあります。そのため、薬剤師または医療従事者からの説明を聞き、薬物治療を受けていただくことが重要となります。

骨粗鬆症は痛みなどの自覚症状がほぼ無いため、お薬を自己中断してしまう方がいらっしゃいます。お薬を自己中断すると、骨の強度が低下し再び骨折しやすい状態に戻ってしまいます。結果として、痛みを訴えて病院に訪れた時には、既に骨折を起こしており入院となる方が散見されます。そのため、定期的に骨密度などの検査を受け、お薬を飲み続けることも重要です。お薬が飲みづらいなどあれば、ぜひ医師や薬剤師に相談して下さい。